



早稲田大学教育総合研究所  
教育最前線講演会シリーズ33

# オンライン授業の評価と方法

## 【プログラム】

### 1. オンライン授業の評価と改善

大塚 雄作 国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部教授  
京都大学名誉教授・大学入試センター名誉教授

### 2. 授業成績評価に関する早稲田大学教育学部教員の意識調査 ～対面授業とオンライン授業を比較して～

澤木 泰代 早稲田大学教育・総合科学学術院教授  
原田 哲男 早稲田大学教育・総合科学学術院教授

### 3. オンラインEMI（英語による専門科目）の授業におけるタスクと学生の認識

守屋 亮 早稲田大学教育・総合科学学術院助手  
（教育総合研究所研究協力員）  
松村 香奈 早稲田大学大学院教育学研究科研究生  
（教育総合研究所研究協力員）

開会挨拶 和田 敦彦 早稲田大学教育総合研究所所長  
司会 佐藤 隆之 早稲田大学教育総合研究所副所長

【日程】 2021年12月4日（土） 13：30～17：00

【会場】 オンライン開催（Zoomウェビナー使用）

【参加方法】 下記URLまたは右下QRコードから参加登録し、ご入室ください。

13：10から入室可能です。

[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_RqC\\_R69wThCiLN4IZt0U5g](https://zoom.us/webinar/register/WN_RqC_R69wThCiLN4IZt0U5g)

【主催】 早稲田大学教育総合研究所  
【お問い合わせ】 早稲田大学教育総合研究所

TEL：03-5286-3838 E-mail：IASE@list.waseda.jp



入退室自由・参加費無料

# オンライン教育の評価と方法

## 【講演概要】

本講演会は、前回の講演会「オンライン教育の現状と課題」（2021年7月3日開催）を受け、「オンライン授業の評価と方法」をテーマとして開催する。前回は、本学や他大学のこれまでのオンライン教育の成果を、学習面と生活面から振り返って検証し、今後取り組むべき課題や他大学での取り組みなどについて総括的に検討した。今回の講演会では、より具体的に、オンライン授業の方法や、成績評価、授業評価に踏み込んだ検討をする。オンライン教育で、どのように対話や協同した学びの場を生み出していくのかを検討したい。次のような内容を予定している。

- 学生の授業評価などを利用したオンライン授業改善
- 教育・総合科学学術院「オンライン教育・調査研究グループ」による調査報告
  - ・ 早稲田大学教育学部教員を対象とした、コロナ前後の成績評価に対する意識調査
  - ・ 対面、オンラインに各授業形態にみあった成績評価のあり方や今後の課題の検討
- 早稲田大学教育学部英語英文学科で2016年より導入されているEMI（英語による専門科目）の授業を対象とする、コロナ前後の学習活動（タスク）の比較検討

なお、前回同様今回も、大学のみならず、広く現職教員、教育関係者、学生、一般の方々に向けた企画としたい。オンライン教育の方法や評価は初等・中等教育に共通するところもあり、今後の連携も視野に入れ、現場の先生方や教育関係者の参加も期待する。

## 《プログラム》

日時：2021年12月4日（土）13:30～17:00

会場：zoomウェビナーによるオンライン開催

講演：

- 提案1. 大塚 雄作 氏** 国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部教授  
京都大学名誉教授・大学入試センター名誉教授
- 提案2. 澤木 泰代 氏** 早稲田大学教育・総合科学学術院教授
- 原田 哲男 氏** 早稲田大学教育・総合科学学術院教授
- 提案3. 守屋 亮 氏** 早稲田大学教育・総合科学学術院助手(教育総合研究所研究協力員)
- 松村 香奈 氏** 早稲田大学大学院教育学研究科研究生(教育総合研究所研究協力員)

―― 休憩 ―――

## 質疑応答・討論

開会挨拶 和田 敦彦 氏（早稲田大学教育総合研究所 所長 / 教育・総合科学学術院 教授）  
司会 佐藤 隆之 氏（早稲田大学教育総合研究所 副所長 / 教育・総合科学学術院 教授）

## 1. オンライン授業の評価と改善

**大塚雄作氏** 国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部教授  
京都大学名誉教授・大学入試センター名誉教授

コロナ禍の突然の勃発によって、オンライン授業は大学のなかでも日常的な位置を占めるに至っている。コロナ禍が収束したとしても、オンライン授業等の遠隔教育は、さまざまな学生のニーズに対応するため、何らかの形で今後も残り続けて行くであろう。一年目は、ほぼ一からの授業作りに奮闘された教員も多いと思われるが、これからは、その授業をオンライン授業という形態のなかでどう改善していくかが問われていくであろう。

そこで、その方向性を見据えた上で、学生の授業評価などをどう利用し、それをどのように改善に結びつけていくべきかについて考えてみたい。

## 2. 授業成績評価に関する早稲田大学教育学部教員の意識調査 ～対面授業とオンライン授業を比較して～

**澤木 泰代氏** 早稲田大学教育・総合科学学術院教授  
**原田 哲男氏** 早稲田大学教育・総合科学学術院教授

コロナ禍により、大学における授業形態は対面からオンラインへとその急速な転換を余儀なくされた。それに伴い授業成績評価にも様々な影響が出ていると考えられる。その現状把握と課題整理を目的とし、早稲田大学教育学部において様々な分野の科目（文系・理系専門科目、教職科目、語学科目）を担当する専任・非常勤教員を対象に2021年夏にアンケートを実施した。

本報告では、コロナ禍前後における授業成績評価方法と評価に対する教員の意識に関する約200名のアンケート回答と、うち13名が参加したインタビュー結果をまとめる。また、それをもとに対面・オンラインの各授業形態の特性に合った成績評価の在り方や今後の課題について検討する。

## 3. オンラインEMI（英語による専門科目）の授業における タスクと学生の認識

**守屋 亮氏** 早稲田大学教育・総合科学学術院助手  
(教育総合研究所研究協力員)  
**松村 香奈氏** 早稲田大学大学院教育学研究科研究生  
(教育総合研究所研究協力員)

評価はタスクを基にした授業内活動の延長線上にあるもので、授業の主体となる学生がどのような授業内タスクを経験、認識しているかは、オンライン授業における評価を考える上でも重要である。

本報告では、早稲田大学教育学部英語英文学科で2016年より導入されているEMI（英語による専門科目）の授業に着目し、コロナ禍前後での対面授業とオンライン授業におけるタスクについて学生へのインタビュー結果から明らかになったことを報告する。対面時とオンライン時で作成されたタスク一覧の比較やそれに伴う学生の声を紹介し、学生視点からタスクを通じた授業と評価の整合性について考察する。